

中嶋 彰子 - プロフィール

2021年にオペラ・デビュー30周年を迎える中嶋彰子は、今までに52の主役級オペラロールを上演した、国際的ベテラン・ソプラノ歌手である。北海道生まれ。15歳で渡豪し、シドニー大学・音楽院を卒業。1990年、全豪オペラ・コンクールで優勝し、同年、シドニーとメルボルン、両オペラハウスでオペラ・デビューを果たす。92年、イタリア・ナポリのサン・カルロ劇場にてオペラ『ラ・ボエーム』のムゼッタ役で欧州デビュー後、同年、オーストリアでインスブルック国際バロック音楽祭に出演。中嶋がタイトルロールを歌ったヘンデルのオペラ『アルチーナ』が、欧州放送連合より92年度最優秀賞を受賞する。以後活動拠点を欧州に移し、インスブルック・チロル歌劇場、ダルムシュタット歌劇場（ドイツ）と専属契約を結ぶ。

その後、スイス、イタリア、オランダ、デンマーク、フランス、スウェーデン、オーストラリアの劇場に活躍の場を広げるが、中でも、映画監督バズ・ラーマン演出による96年のシドニー・オペラハウス公演『ラ・ボエーム』の魅惑的なムゼッタは高い評価を得、大きな注目を集める。99年にはダルムシュタット歌劇場でのオペラ『ランメルモールのルチア』でセンセーショナルなルチア役を演じ、ドイツ有数のオペラ誌「オーパンヴェルト (Opernwelt)」の最優秀新人賞にノミネートされる。同年ウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手となり、『椿姫』、『魔笛』のパミーナ役、『愛の妙薬』アディーナ役、ストラヴィンスキー『道楽者のなりゆき』アン役などで出演。卓越した歌唱力と演技力、そして自由で華やかな存在感で圧倒的な人気を獲得する。2007年ハンブルク州立歌劇場デビュー。同年末にはサンディエゴ交響楽団との共演でアメリカ・デビューも果たす。

オペラ以外では、ロリン・マゼール、ヘルベルト・ブロムシュテット、小沢征爾、チョン・ミョンフン、大野和士、ハインリッヒ・シフら名指揮者のもと各国のオーケストラと共演している他、ウィーン芸術週間、スポレート、ブレーゲンツ、ミュンヘン・ビエンナーレなど著名な国際音楽祭にも出演している。

日本では、99年シャルル・デュトワ指揮 NHK 交響楽団との共演、フォーレ「レクイエム」で本格的な活動をスタート。NHK ニューイヤーオペラコンサート、NHK 総合番組「名曲アルバム」出演などのテレビ出演、国内の多くの交響楽団の客演の他、新国立劇場『ウェルテル』ソフィー役、『フィガロの結婚』スザンナ役、『コシ・ファン・トゥッテ』デスピーナ役、『こうもり』アデーレ役、『ラ・ボエーム』ムゼッタ役、日生劇場『後宮からの誘拐』、『利口な女狐の物語』、びわ湖オペラ『ラ・ボエーム』、あいちトリエンナーレ2010プロデュースオペラ『ホフマン物語』ジュリエッタ役、千住明作曲新作オペラ『滝の白糸』、2017年東京、金沢、高崎、大阪の4都市で上演された全国共同制作プロジェクトのオペラ『蝶々夫人』にタイトルロールなどに出演する。

ウィーン・プライザー・レコーズ社よりリリースされた歌曲集『ラ・パストレッラ』(PR90647)は2005年度ドイツ批評家大賞にノミネートされたほか、その他のソロCDアルバム、オペラ・アリア・デュエット集『女の肖像』(PR90691)、世界初録音を豊富に取り入れたアリア集『愛の喜び』(CDS556)、ウィーン楽友協会録音のオペレッタ歌曲集『ウィーンわが夢の街』(GRML98908)も好評を博している。

2013年に現在の一般財団法人群馬オペラアカデミー「農楽塾(のうらじゅく)」を成立。「農」と

「音楽」を組み合わせた斬新なコンセプトの合宿型オペラアカデミーを設け、海外の著名な指導者達と共に次世代の育成に力を入れている。2012年からは脚本、演出、企画プロデュースも手掛け、2017年にはスイスのシオン音楽祭にて舞台作品『夢幻能：月に憑かれたピエロ』をプロデュース&主演、2019年には笠松泰洋作曲オペラ「人魚姫」をウィーンのダス・オブシアターにてプロデュース&演出する。

第14回「出光音楽賞」受賞。AMATI所属アーティスト。ウィーン市立音楽芸術大学（MUK）舞台芸術学部声楽/オペラ科独唱専攻教授。2020年よりウィーン壙日協会音楽監督。一般財団法人群馬オペラアカデミー「農楽塾（のうらじゅく）」総監督。ぐんま観光特使。

-ホームページ: www.akikonakajima.org

-所属事務所 AMATI: www.amati-tokyo.com

-農楽塾オフィシャルサイト: www.nourajuku.com

-YouTube チャンネル: [Angel Seraphim](https://www.youtube.com/channel/UC...)